

1 学年だより

夢の宅配便

1 年学年主任

水野 喜代治

セピア色の思い出

(第18回卒業生)



先日の日曜日に部屋の整理をしていたら、私の高校時代の卒業アルバムが出てきました。卒業した当時は懐かしさもあり、よく見ていましたが、就職してからは、仕事も忙しくアルバムを見る機会はありませんでした。アルバムはいつの間にか、段ボール箱の底に入れたままになって眠っていました。

断捨離をかねて、段ボールを整理していると何十年かぶりにすっかり忘れていた卒業アルバムに目が留まりました。なつかしさの余りそっと、アルバムを開くと高校の中庭で撮った3年6組のクラス写真が目に飛び込んできました。懐かしい級友たちと45年の月日を経て再開しました。写真が私に、「きよちゃん、元気!」と言っているような気がしました。何でも相談しあった友、同じ部活(サッカー)で汗を流した友、口論になってお互い卒業まで平行線の関係で終わった友……。どの友との思い出も、今となっては温かく懐かしいものです。

特に、平行線のまま対立して終わってしまった友に会ってみたいなと思いました。高校の時はお互いぶつかって平行線のままでしたが、いろいろな人生経験を積んだ今なら、彼の気持ちを受け止められるし、彼も私の気持ちを受け止めてくれるのではないかと思います。お互い相手を認めているからこそ、激しく対立したのだと思います。大人は、そこまで相手と関わることはなかなかしませんから。中学生、高校生のときに縁があって知り合った友は、最終的にはみんな心が一つになることができるのだと思います。高校の同窓会が今度、開かれたら必ず出席して平行線で終わった彼に謝って、乾杯してお酒を飲みながら語り合いたいと思います。そんなことを考えていたらセピア色の写真が、いつの間にかフルカラーの写真に私の心には映っていました。